

所沢市マスコット



トコろん

豊かなみどり あふれる笑顔 みんなで明日をつくるまち所沢

第23号

環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

発行責任者 会長 毛利 吉成

未来の子どもたちへ

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

環境推進員の皆様におかれましては、日頃より当協議会事業運営にご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年、12月14日東日本大震災後の社会情勢の変化を見すえ、ライフスタイルを見直し、自然と寄り添ったエコロジーなマチをみんなで、次代につなげていこうと「環境フォーラム～マチごとエコタウン所沢～」が開催され、私も「市民・事業者が描くエコタウンについて」のパネリストとして参加しました。

このフォーラムの冒頭で藤本市長は、「マチごとエコタウン構想」について、太陽光発電や電気自動車などの科学技術の進歩に頼るエコタウンではこれまでも変わらない。東日本大震災を機に、自然を征服するのではなく、大切に、未来の子どもたちに残してゆく。そうした新たな方向性を持ったもの、日本人の生き方を問うような内容にしたいと述べられました。この藤本市長の考えには私も深く共鳴するものであります。私は、それを実践していく力となるのは、次世代に向け学校教育の中での環境教育

の充実や、「子ども環境サミット」のようなイベントを開催し、子どもたちが、自由に自然や環境について考える場も必要であると考えております。そうした中から育った子どもたちが、エコタウン活動の大きな力となり、所沢市民の「環境ブランド」の担い手になっていって欲しいと切に願っております。



環境推進員の皆様には常日頃より、地域におけるリーダーとして、ごみ問題や美化活動に精力的に取り組んでいただいております。こうした地道な実践活動は、きっと子どもたちに対するメッセージとして、伝わり、次世代に受けつがれてゆくものと信じております。

今後、マチごとエコタウンの事業が伸展してゆくときには、推進員の皆様のお力が必要となるでしょうが、なにとぞ、ご協力を賜りたいと存じます。

環境講演会

「環境保護と豊かな生活は両立できる 一楽しくエコライフ」を聴いて

新所沢地区 永岡 和子

2月13日(木)、ミューズ中ホールにて環境講演会を行いました。獨協大学教授でもあり、経済アナリストでもある森永卓郎先生を迎えて、エコライフに関しての話を伺いました。私は司会を担当させて頂きました。

森永先生は、30年ほど前に、北野天神近くに居を構えられました。そう、所沢の住人なのです。

先生はまずマクロの問題から入られました。京都議定書では、日本は排気ガスを2012年までに6%削減と言っていましたが、2013年以降、日本は主要な排出国である中国とアメリカが参加していないことによりその実効性が疑問との立場から、「京都」という名前がついているにもかかわらず、延長京都議定書から離脱しています。

また、原発はその原子炉を廃炉にするにしても莫大な費用がかかる。今ある炉の維持費もかかる。高い天然ガス、石油代金、増える排気ガス、我々の肩にかかる費用……。

さて、そんな中で、森永先生の提言です。

「穴を掘りましょう」つまり、地熱発電を開発しましょう。アイスランドが一番で、日本は世界で二番目に地層に恵まれているそうです。近頃は高温に

も溶けないパイプも考案されているとのこと。とはいえ、即実現化とはいかないでしょう。

そこでミクロのテーマに移りました。そう、今我々に何ができるか……。

「みえ」は捨てよう。ケチ、セコイ、シブイをモットーに「セコロジー」で生きよう、というものです。昭和30年代は今の5分の1のエネルギーで済ました。しかし、今、消費税は上がり、年金は減ります。欲望はおさえよう。せめて昭和50年代頃での生活ですること



で、エネルギー消費量は減ります、ということです。「食」にしばって考えると、「食べたい物」を追求しない。食べられる事に感謝して、残さない、無駄なものは買わない。エコにつながり、節約もできる。こうした話を断家顔負けにユーモアたっぷりで講演をしめくくってくれました。でも、私たちがセコロジーやっていますよネー。

航空公園外周道路が綺麗になりました

新所沢地区 稲津 昌幸

環境推進員メンバーの約半数・5百余名が結集して、昨秋10月19日、航空公園外周道路の清掃を行いました。清掃活動のほとんどは街路樹の落葉拾いで、熊手を使用するのは初めてという方も…。秋の一日推進員さんの努力が実り、この日の外周道路は見違えるほど綺麗になりました。

一年に一回、全市の環境推進員一同がお互いの顔を見合い、活動の成果と確信を共有する気持ちになるろう、航空公園で市民フェスティバルも開かれるので事前に清掃し綺麗な道路で皆さんをお迎えしようなど、いろいろな理由でこの清掃活動は始まりました。

活動が終わって、帰宅の電車の中や自転車での道すがら、「いつまで綺麗な状態が続くかしら」、「ひと風吹いたら元通り」などと現実的な意見もありましたが、「自宅から近い場所も綺麗にしたいね」、「自宅近くだと環境推進員以外の人も誘えるし、風が吹いたら翌日でもほうきとビニール袋を持って行



けるし」、さらに「新所沢駅から続くけやき並木通りをやりたいね」「いや、緑町中央公園の方が適当だよ」など、自分たちの身近な地域の美化にも目が向くようになりました。

それぞれ皆さんが住んでいる地域にも、みんなでわいわい集まって清掃したくなるような場所があるのではないのでしょうか。

遊歩道の美化活動

三ヶ島地区 西海 寛

三ヶ島第11区域内には、今から30年程前まで、狭山丘陵を水源とし、不老川に至る水路が流れておりました。この辺りは当時、まだ今日ほど宅地化が進んでおらず、一面に畑が広がっておりました。昭和58年頃この水路が所沢市によって地中化され、そこに現在の第1緑地、第2、第3駐輪場が造成され、現在の遊歩道となりました。

その後、維持管理については、委託を受けた三ヶ島第11区自治会が、今日まで美化活動を行っております。

緑豊かであった狭山ヶ丘駅付近も宅地化が進み、今ではこの遊歩道が、11区唯一の緑地帯として近隣の人達の憩いの場となっております。また第2、第3駐輪場も今年度で役目を終えて、平成26年度には第1緑地と同様に緑地となる予定で、現在その準備が進められております。

私たち三ヶ島第11区自治会では、近隣の皆様に少しでも気持ちよく使っていただくため除草、清掃、樹木剪定、秋の落ち葉掃き等、遊歩道の美化活動を行っています。各支部輪番制による担当者と推進員で月2回、春秋の環境美化の日を含め年間24回、延

べ動員数は500人／年に及びます。また、特に遊歩道に接道している多くの家々では、日常的に清掃、剪定を行っておりますが、遊歩道に設置してあるベンチの回りはゴミの散乱が酷く、ゴミすて禁止看板を設置してはありますが、未だ改善されておられません。遊歩道の美化活動はゴミのポイ捨てや落書き、不法投棄などの犯罪行為を防ぎ安心・安全な地域づくりのためにもたいへん重要だと考えております。今後も先輩方より引き継いだこの遊歩道を大切に維持管理してゆきたいと思っております。



クローズド型最終処分場

並木地区 北川 洋

11月19日、所沢市環境推進委員会の視察・研修で、群馬県吾妻郡中之条町にある、一般廃棄物最終処分場を見学してきました。

吾妻東部衛生施設組合のこの施設は、圃場整備の余剰地に地元からの要請によって建設されたようですが、周辺環境・安全性には極力配慮しています。

この処分場の特徴は「クローズド・無放流型」ということで、施設を屋根や壁で覆い、運び込まれた焼却残渣、破碎ゴミ、処理残渣等はすべて屋内で処理されています。雨水や風、鳥獣などから隔離されているため、臭気も含めて周辺環境への影響はほとんどないそうです。

運び込まれた焼却残渣や破碎残渣等から出る浸出水は、併設された水処理施設1設で生物処理・膜分離等を行い、場内散布に使用されています。河川には放流しないため地下水への影響もありません。

建物は縦12.9m、横3.2mあり、平成34年の施設利用終了後は、直線100mのトラックを持つ屋内体育館に利用する予定になっています。

この施設を利用する中之条町、東吾妻町、高山村の人口は38,000人ほどで、所沢市の一行政区とほぼ同じです。所沢市でも、各行政区ごとにこのような施設を設置したらどうだろう、などと考えながら帰路につきました。

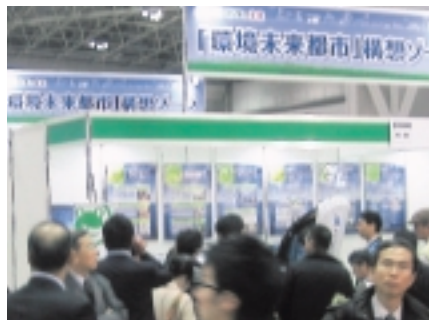
2013エコプロダクツ見学に参加して
まちごとエコタウン“所沢市民の環境ブランド”を夢に！

小手指地区 大館 正義

昨年の12月12日、環境推進員43名は、東京ビックサイドで開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」を見学しました。

“今をつくる地球の未来”をテーマに「環境未来都市構想ゾーン」、「ゴミゼロ大作戦ゾーン」など環境動向を知る講演を交え702の「産・学・官」や環境団体などが1,703ものブースをつくり問題意識を持つての環境発信の場でもあります。入場者、約17万人とのこと「環境」への関心の高さにびっくりです。

私は「環境未来都市構想ゾーン」を中心に見学、特に、印象深かったのは、未来の住まい方を研究・実証した建物「横浜スマートコミュニティ・スマートセル」です。外装は高性能断熱材、窓は真空ガラスで、内部はエネルギーシステムで完全制御、太陽光で電気をつくり需要ピーク時や停電時には自動的に肩代わりし、余った電気は蓄電してEV車の充電に使用するなど、エネルギー効率に最大限に配慮された建物で将来は複数の家々をつなぎエネルギーの融通が出来るコミュニティを創るとの事。



後日、このプロジェクトについてより詳しく知りたくなり、横浜に常設展示されている横浜スマートコミュニティが推進する次世代コミュニティモデルとなる研究・実験ハウス「スマートセル」の会場に行ってきました。このプロジェクトは参加企業17



社が資器材やノウハウ、そして資金迄も持ち寄って立ち上げあげ、83社を超える企業が参加し、環境に負担をかけないエネルギーを用い有効利用する仕組みを実現する社会システムを創っていくことを目標に研鑽をつんでいるそうです。

自然とエネルギーとのコミュニケーションのとれたスマートな格調高い横浜に似合いの環境発信のシンクタンクとも言えるようなところでは。将にまちごとエコタウンの縮図を彷彿とさせるような設計やシステムは、自然との調和や文化・芸術・食・ヘルスケアなどが必要である事を再認識させられました。やがて、このような環境システムが世界に商品として発信される予感にワクワクするとともに、このプロジェクトに期待した所以です。

今、我が所沢市も「まちごとエコタウン」構想が構築され動き出そうとしています。私たち市民がこぞって人と自然との良好なコミュニケーションをとりながらの「所沢環境ブランド」を構築し先進都市に負けない「所沢環境ステージ」つまりエコタウン所沢を“所沢市民のブランド”として発信することも市民としての環境推進員の責務ではないかと思った次第です。

はたして水銀は輸出入禁止となるか？

環境コラム

柳瀬地区 丸山 千尋



わが国で初めて公害病と認定された富山・神通川のカドミウムによるイタイイタイ病は1968年の初提訴から45年を経て全面解決した。一方、熊本県水俣市の有機水銀による水俣病はイタイイタイ病より発生も早く、量的にも質的にも日本の代表格である。

水銀といえば温度計、血圧計でもおなじみのもの。それこそ水銀は地球のあちこちで発生、人間からも少量、地球の地殻からの6億トンをはじめ、いろんなものから発生している。人間の日常生活ライフラインには蛍光灯や電池、カセイソーダなど明るく豊かな生活に欠かせないものだが、有機水銀の害毒など考えたことがない。この水銀の特徴は常温では固まらない。それでいて、無機でも金属でも気化しやすく、酸化しやすいことや、それこそ微生物などによって、毒性の強い水銀に激変する。その点でもイタイイタイ病をはるかにしのぐ魔物である。

国連では、この水銀の問題をかねてから調査、その報告をまとめ



2001年に続き、2009年に国連環境計画で、水銀によるリスク削減のために法的拘束力のある文書（条約）を制定、2010年、そのための政府間交渉委員会を設置。2013年、10月10日に熊本・水俣市に140の国、地域が参加した国連環境会議で、国際的水銀条約に関する条文案が合意され、条約の名称が「水銀に関する水俣条約」に正式に決定した。世界中から水俣市に集まった政治家や、科学者は現実に水俣病の惨状をどう見たか。きっと有機水銀による深刻な健康被害水俣病を繰り返さないことと決意したことだろう。50か国以上が批准すれば、2018年から水銀は原則輸出入禁止になるのだが…。

先進国・後進国がそれぞれの事情をかかえており、安心はできない。



水俣条約外交会議の様相

レジ袋削減・マイバッグ推進キャンペーン

昨年10月25日、市役所1階市民ホールで、市役所資源循環推進課が主催する「レジ袋削減・マイバッグ推進街頭キャンペーン」が実施されました。

このキャンペーンは、マイバッグを持参することによって、無駄なレジ袋を削減し、ごみの減量や地球温暖化の防止を図ることを目的としたものです。当日は、環境推進員連絡協議会から毛利会長以下3名の副会長も参加し、1,000枚の啓発用マイバッグを配布しました。



歩きタバコ等防止啓発キャンペーン

11月12日(火)、午後6時から市内8駅の14出口で歩きタバコ等の防止啓発キャンペーンを実施しました。キャンペーンには各地区の環境推進員239名が参加し、約1時間喫煙マナーの向上を呼びかけました。



環境フォーラムが開催されました



現在策定中の「マチごとエコタウン所沢」構想の内容を広く市民等に知っていただき、意見を伺う場として、昨年12月14日(土)、中央公民館ホールで環境フォーラムが開催されました。

当日は、第1部、基調講演会とマチごとエコタウン概要説明、第2部、パネルディスカッション、当協議会の毛利会長もパネリストとして、環境推進員の立場から、ごみ減量等の実践活動を通じ地域に貢献することや次世代に向けての環境教育の重要性について語りました。



編集後記

自然と寄り添ったエコロジーなマチ所沢の推進役「動く環境推進員」は、たて糸、横糸を紡ぎ「市民の環境ブランド」という大きな綺麗な布を織り上げていく地道な実践活動ですね。(Mo)

編集長：荻野義雄（三ヶ島）

委員：魚島克巳（新所沢東） 久下紀世（新所沢）
新居亨一（山口）

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

環境推進員連絡協議会を検索してアクセスしてください。